

留 学 報 告 書

記入日:2018年7月24日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部文学科ドイツ文学専攻
留学先国	オーストリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ウィーン大学 現地言語: Universität Wien
留学期間	2017年10月～2018年6月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	社会科学部 <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2018年7月2日
明治大学卒業予定年	2020年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期:3月上旬～6月下旬 2 学期:10月上旬～1月下旬 3 学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	94000人
創立年	1365年

留学費用項目	現地通貨 (ユーロ)	円	備考
授業料	50	円	student union fee (2 semester)
宿舍費	3300	円	滞在中のトータル
食費	3500	円	滞在中のトータル
図書費	50	円	語学のテキスト代
学用品費	30	円	コピーカードなど
教養娯楽費		円	
被服費	800	円	
医療費	100	円	眼科と薬局に1度行った分
保険費		11万円	形態:明治大学留学生必須の保険
渡航旅費		20万円	変更代金含む
雑費	380	円	滞在中の生活用品
その他	150	円	セメスター交通カード
その他	250	円	寮手続き費用
その他	580	円	語学講習
合計	9190	33万円	

渡航関連

渡航経路: Japan Airline

渡航費用

チケットの種類 エコノミークラス

往路 _____

復路 _____

合計 20万

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

地球の歩き方

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)

寮

2) 部屋の形態

 個室 OR 相部屋(同居人数3人)

3) 住居を探した方法:

大学のウェブサイト

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私は2人で1つの部屋を使っていました。異なる文化、ライフスタイルを持つ人と暮らすのはとても大変なので、1人部屋をお勧めします。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

 利用する機会が無かった 利用した: 明治大学必須の保険会社のサービス

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

現地の学生や、他の日本人留学生に相談した。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

日本大使館から定期的に配信されるメールを読んでいた。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮、大学内の wifi はスムーズに繋がっていた。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地の銀行を開業し、student union fee を振り込んだり、家賃を払ったりした。日本の銀行口座に振り込まれる奨学金を現地の ATM からユーロで引き下ろしていた。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

目薬

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)

卒業後の進路について

1) 進路
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
38単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Categorical remedial educational theory with special educational need	様々な障害とその解決方法
科目設置学部・研究科	教育学部
履修期間	2017 冬学期
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	セミナー(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Margarita Bilgeri
授業内容	特に、アフリカにおける就学率の要因と子供達が抱える障害の内容、そしてその打開策について扱いました。プレゼンでは、ヨーロッパ、アジア、アメリカなど広い地域レベルで研究しました。
試験・課題など	プレゼン、タームペーパー、毎回のリアクションペーパー
感想を自由記入	タームペーパーを書くのが1番大変でした。一回提出して、書き方が違うと指摘され、書き直して再提出しました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Consultation,diagnostics, rehabilitation and therapy	移民が抱える教育問題
科目設置学部・研究科	教育学部
履修期間	2017年 冬学期
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	セミナー(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Seyda Subasi
授業内容	ヨーロッパにいる移民がどのような教育問題を持っていて、どのように移住先の教育システムと関わっているのか
試験・課題など	プレゼン、タームペーパー、リアクションペーパー
感想を自由記入	2週間で1回の授業だった。最初は2人でプレゼンする予定だったが、パートナーが途中で授業を辞めてしまったので、一人でやることになり、少々不安だったが、前もって準備を進めていたので、やり遂げることができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
The Chinese diaspora in Africa	アフリカにおける中国人移民の実態
科目設置学部・研究科	アフリカ学
履修期間	2017年 冬学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義だったが、人数が少なかったため、結局セミナーのようだった(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Adams Bodomo, Dewei Che
授業内容	アフリカに住む中国人移民の実態
試験・課題など	プレゼン、タームペーパー
感想を自由記入	前半と後半で先生が交代する授業だった。前半の先生は、英語訛りが激しく、聞き取るのがとても困難だったが、スライドが充実していたので、内容を理解することができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Approaching cultural studeis	文化研究
科目設置学部・研究科	英語学
履修期間	2017年 冬学期
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Paul Fagan
授業内容	文化を通じて生まれる意味や、権力、知識、表現等のセオリーを、例見ながら、比較的学ぶ。
試験・課題など	記述試験
感想を自由記入	先生の英語がクリアな発音で、スライドも充実していて、テスト前には、授業の要点をまとめてくれたので、理解しやすく、何より楽しい授業だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Basic competence translation A Japanese	日本語翻訳の基本
科目設置学部・研究科	翻訳学
履修期間	2018年 夏学期
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	演習(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Yasuko Yamamoto
授業内容	ノートの取り方から、翻訳種類、翻訳家の職業など翻訳に関する基礎を学ぶ。その後、ドイツ語から日本語、日本語からドイツ語に初歩的な翻訳、通訳の練習をする。
試験・課題など	課題、記述試験
感想を自由記入	グループワークが多かったので、わからないところがあっても助け合いながら授業を進めることができた。他のグループや先生からいつもフィードバックをもらうことができたので、自分の間違っているところや足り部分を見つけることができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Consecutive interpreting I Japanese	日本語逐次通訳
科目設置学部・研究科	翻訳学
履修期間	2018年 夏学期
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	演習(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Yasuko Yamamoto
授業内容	いろいろな翻訳方法を使って、日本語からドイツ語、ドイツ語から日本語に翻訳する。
試験・課題など	課題、口頭試験
感想を自由記入	自分にとってかなり難しい、レベルの高い授業でだったと思う。”日本語翻訳の基本”のクラスよりも本格的な翻訳授業で、すでにドイツ語をマスターしている人向けだった。何回もやめたくなったが、最終的には自分の身になったと思えるので、頑張ってたかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introductory lecture-Development economics	経済開発入門
科目設置学部・研究科	アフリカ学、中東学の共同
履修期間	2018年 夏学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Valentin Seidler
授業内容	GDPなどの経済用語から経済発展のセオリーまでカバーしている。
試験・課題など	選択問題
感想を自由記入	発展途上国に興味があったので、受講した。しかし私は経済を勉強してことがなかったので、最初は不安だったが、授業内では基礎の基礎から取り扱ってくれたので理解しやすかった。経済学初心者にはオススメである。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
German course A1/2	ドイツ語コース A1/2
科目設置学部・研究科	語学専用機関
履修期間	2017年 冬学期
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	演習(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が3回
担当教授	Jojanna Setzer
授業内容	ドイツ語の4技能を鍛える
試験・課題など	4技能試験
感想を自由記入	朝9時から始まる授業だったので、早起きが大変だった。先生はクラスによって当たり外れがあるが、私のクラスの先生は優しく、教え方もわかりやすくてよかった。



留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2016年 1月～3月	
4月～7月	明治大学入学
8月～9月	夏期 TOEFL,IELTS 講習
10月～12月	出願、面接
2017年 1月～3月	選考通過、第1回オリエンテーション
4月～7月	第2回オリエンテーション
8月～9月	出発
10月～12月	
2018年 1月～3月	
4月～7月	帰国
8月～9月	明治大学復帰
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	高校生の時に出会った親友がインターナショナルスクール出身で、英語が堪能で、賢く、目的意識が高くて、いつもクラスの憧れの的でした。そのような友人と接するうちに、外国の文化、人々、語学に対する興味が高まっていき、長期留学をするのが夢になりました。どの国に行きたいなど、特定したことは考えていませんでしたが、とにかく大学生になったら絶対に留学を実現しようと考えていました。実際に大学に入学してからは、日本の大学では勉強できないこと(ドイツ文学以外のこと)も学びたいと思い、準備を本格的に進めていきました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学力を向上させることです。出発前に、以前にウィーン大学に留学した学生の報告書を読んで、ドイツ語力を向上させなければと思っていましたが、私の勉強は相当甘かったと痛感しました。というのも、ウィーンに来た他大学の学生達はすでにドイツ語でスムーズの意味疎通できるレベルだったので、みんなでワイワイ話をするときは、本当に苦い思いをしたからです。それからは、ドイツ語の勉強に対するモチベーションがかなり上がりました。
この留学先を選んだ理由	ドイツ文学専攻なので、やはりドイツ語圏の大学を考えていましたが、同時に自分の英語力をもっと伸ばしたいという思いもあり、英語圏も視野に入れていました。最初の段階では、アメリカや、カナダの大学の志望順位が高かったのですが、今の自分の専攻を考えると、やはりドイツ語圏に行くのが妥当だと思い直しました。昔からウィーンに憧れていたことと、英語での授業がそれなりにあることから、ドイツの大学ではなく、ウィーン大学を選びました。
大学・学生の雰囲気	留学するには完璧な場所すぎて一言では表現できません。まず外見的なところに注目するならば、とにかく美しく、歴史の重みを感じる建築です。ウィーン大学はドイツ語圏で最古の大学ということもあり、大学のメインキャンパスからは、その名声と数々の功績を伺えます。また現地の学生に関しては、勉強と娯楽の使い分けがすごく上手だという印象を受けました。テスト期間は図書館が満員になり、それぞれの課題に取り組み、それが終わると、学期末のパーティーでお酒やダンスを楽しむのです。
寮の雰囲気	私の寮は、それぞれのフラットという区切りが少し強かったので、全フラットの人が集まるイベントはそんなにありませんでした。どちらかというと、友達を作るチャンスは大学内が多かったです。設備等は特に困ったことはありませんでしたが、1つ挙げるなら、地下にある洗濯機の数少なく、予約システムもなかったことです。洗濯室までわざわざ行っても、別の人が使っている時は、自分の思うように洗濯できないことがあり、不便でした。寮を管轄しているオフィスのスタッフは親切で、ウェブサイトも充実しているので信頼性は高いと思います。
交友関係	私が現地で作った友達の多くは日本学の学生です。これを聞くと、せっかく留学に行ったのに日本語を話していたのかと、思う人もいるかもしれませんが、私はマイナスなことだと思っていません。彼らとタンデムをしてドイツ語を磨いたり、日本に興味を持ってきているからこそ、心で会話することができ、一生大切にしたい友達がたくさんできました。また、授業内では、様々な言語を母国語とする学生と知り合うことができ、だからこそ、英語というツールを用いて、グループワークをしたり、休みの日はパーティーをしたりして、心に残る思い出をたくさん作りました。
困ったこと、大変だったこと	嫌なことはすぐ忘れてしまうラッキーな性格なのですが、1つ挙げるなら、寮の2人部屋(1つの部屋に2つのベットがある)のことです。冬学期は台湾人の女の子と、夏学期はコソボ人の女の子と共同で使っていました。困ったのは夏学期からで、私とルームメイトのライフスタイル、文化が違いすぎたので、居心地はあまり良くなかったです。彼女は夜型で、部屋も響きやすい構造だったので、夜彼女が帰ってくると、いつも睡眠を妨害されていました。私も、朝ガタガタ支度をするのは申し訳ないし、気を使いつづけるのもとても大変だったので、ストレスでした。結局6月の中旬には別の場所に引っ越し、最後のセメスター生活をストレスを感じることなく、思う存分楽しめました。
学習内容・勉強について	冬学期は教育に関する2つのセミナーを取っていたので、リーディングの量も多かったですし、プレゼン、タームペーパーの提出が必須でした。まず、プレゼンやペーパーは、作り方のスタイルが日本と違うので、悪戦苦闘しました。正直、たまにディスカッションについていけない時もありましたが、同じグループの優しい友達がいつも助けてくれたので、最後までやり遂げることができました。夏学期は、翻訳の演習のクラスで苦しんでいました。特に逐次通訳の授業は、受講者全員のドイツ語のレベルが高かったので、自分の場違いさを毎回痛感していました。途中でやめようと思いましたが、同じクラスの友達や先生にアドバイスをもらい、なんとか乗り越えることができました。

課題・試験について	冬学期は、評価の対象を出席点とプレゼン、タームペーパーとする授業が多く、制限時間内で解くテストはあまりなかったので、テスト期間に特に焦ることはありませんでした。その分毎回の授業が大変でした。夏学期は、毎回の翻訳の授業のための事前準備が欠かせませんでした。それにより、授業での理解も深まったので自分の力になったと思います。勉強は主に国立図書館やカフェを利用していました。時々休憩がてらカプチーノを飲み、人間観察をしながら勉強していました。
大学外の活動について	ウィーン大学は、USI と呼ばれるスポーツ専用機関と連携があるので、誰もが手軽にスポーツを楽しむことができます。私は冬学期の初めに、社交ダンスとピラテスのクラスに通っていました。ドイツ語でのレクチャーは聞き取るのが大変でしたが、インストラクターの方が気を使って、時々ボディーランゲージを通して丁寧に教えてくれました。また、ウィーン国立音楽大学の日本人の方と友達になったので、コンサートに招待してもらうことがよくありました。世界レベルの人たちの演奏を見せてもらったことは、日本では味わえない大変貴重で、感動的な経験でした。
留学を志す人へ	留学を志している皆さんは、期待と楽しみでいっぱいですよ。でも、自分の思うようにいかないこともあるかもしれません。授業が難しかったり、在留許可を取るのが大変だったり、いろんな障害がたちはだかうこともあると思います。そんな時は自分の考える”当たり前”を切り離してみてください。外国で暮らすこと、学ぶことは、日本にいる時と何もかもが違うのです。その違いを快く受け入れ、上手に順応することが、留学生活成功のキーポイントだと思います。私はウィーンで過ごした1年間で1番幸せな年でした。みなさんが留学を終えて帰国する時には、私とおなじように思ってもらえたら、嬉しいです。頑張ってください！



一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	ドイツ語	授業	ドイツ語		ドイツ語		
		授業				不定期授業	
午後	自習	授業		自習	自習		
			授業	自習			
夕刻							
夜			飲み会				